

カトリック高松教区（大船渡プロジェクト） 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター（4）

発行人 高松教区サポートセンター 2012年7月1日発行
編集 谷口広海
寄付 郵便振り込み：カトリック高松司教区
01650-7-13208
(お振入の際はTSCへの寄付の意向を必ずご記入ください)
tel:070-5512-6810 Email:tk-koho@mx1.netwave.or.jp

あの震災と大津波、原発の放射線被災から2回目の夏を迎えようとしています。しかし今、日本は東海・東南海・南海連動大地震の想定最大震度8を巡って、戦々恐々とした状態でもあり、その対策に取り組み始めています。明日は我が身となるかもしれないのです。高松教区も他人ごとではなく、四国各地の小教区建造物の点検と、問題がある建物についてはその対応に迫られることとなるでしょう。それでも東北のことはこれまで通り、常に寄り添いながら被災者の喜びとなれるように努めて参ります。



高松教区内の支援活動報告

(但し、報告がなされた分に限っています)

東日本サポートセンター高知

東日本サポートセンター高知は中島町教会の林さん、江ノ口教会の私（山下）が務めています。合同ミサで会った時、復活祭にクッキーを送ろうと二人で決めました。集まるかどうか少し心配しましたが、さにあらず、高知地区のやさしいひとたちの協力を得られ6箱も送ることが出来ました。箱を用意してくれたり、送りの車を走らせてくれたり、皆さんそれぞれのタレントを発揮してくれました。2人だけではなかなか送付することは難しかったです。送ることだけでも多くの人の助けの手を受けましたが1つの目的のために集まり、無駄話をしながら1つのことをする喜びは楽しいことです。それが誰かの笑顔を生むことになるのですから。

次は溝部司教様の要請で古着物を八木山教会に送りました。たくさん集まってうれしい限りです。皆さんのご協力に感謝です。古着物は新しい洋服や袋に生まれ変わることと思います。私達には家もあり家族もいます。「自分の出来ることをやる」これが東日本サポートセンター高知です。

江ノ口教会 山下 多加子



手作り菓子の出荷



集まった着物を前に

八木山教会からの感謝状

此の度は私たちのカトリック八木山教会の震災対応活動に多大のご支援を戴き深く感謝いたします。八木山オリーブ会として巨理の旧館仮設で傾聴活動をしています。この傾聴活動は6回目を迎え相互の信頼関係構築から独立支援の段階に移行しつつあります。

具体的には着物を加工し作業服を作って自分で着る段階から和風小物を作成して生活費を稼ぎ、独立標に転換していきまし、季節のイベントつつ参加拡大を模索訪問活動を停止するち継続して活動します。

頂いた着物は普段使っています。ほとんどの着物はくじ引きで配布したり、葬儀の必須アイテムの礼服は希望者が殺到しています。今後は着物の生地を活用した和風小物の作成を蓄積し販売を目指します。幸いにもスイス大使館からヨーロッパでの販売の提案があり付加価値を付けた販売先確保が出来そうです。

私たちは活動を通してたくさんの小さな奇跡や感動を体験させていただいています。これからも顔が見える活動、恵みが伝わる報告を心がけます。

これからもご支援いただけますようお願いいたします。

八木山教会 教会委員会



どう、似合うかしら

の支援に導くことを目指す。男性の参加も考慮を盛り込みながら少ししています。他団体が中、中・長期展望を持つことが必要になってい

着制作の材料に活用し

高松サポートセンター（TSC香川県）活動報告

- ①11年7月31日 香川地区宣教司牧評議会に於いて、（東讃一六車氏、西讃一須山）をTSC窓口係りとして選出。
- ②10月5日 被災地から氏家神父を迎えて、高松教区の老若男女10数名が集い慰労会の席上で11月下旬に神父の活動地域（いわき市）へ「さぬきうどん振る舞い隊」の派遣を計画、クリスマス・カードの作成と他に救援物資等の供出を各小教区へ呼びかける。
- ③11月26日・27日、参加者六車氏をはじめ11人、福島、岩手へのボランティア活動として、香川地区評議会の連携支援と予算措置を得て、被災地でのうどん接待を実施。
- ④11年末～12年始に被災地への支援として、お米券入手資金を各小教区にキャンペーン、丸亀教会では、6万円をTSCに送金。四国4県として送金
- ⑤12年3月11日（日）桜町教会にてチャリティー・コンサート（入場券¥1,000）各小教区から、参加者を募る。
- ⑥12年5月16日その他として、多度津町々民会館にて、「東日本大震災支援コンサート」トータル・エクスペリエンス・ゴスペル・クワイヤ合唱団に、周辺教会から10数人が参加。今後もこのような個々の支援活動を広く求める事も可としたい。

以上TSC発足から10ヶ月、未だ組織の手足となって、画期的な活動迄には至ってませんが、私達の選出母体である地区評議会からの支援と協力が、大きな原動力になりました事をこの紙面をお借りして感謝致します。今後ともセンター長の谷口助祭の指導のもと、東西ブロック、各小教区の方々からの、ご協力を得て推進しますので、宜しくお願いします。

2012年5月 ・東讃B 三本松教会 六車廣行 ・西讃B 丸亀教会 須山二郎



松山教会



これからも引き続き義捐金募金を行っていきます。

聖ドミニコ宣教修道女会坂出修道院

＊聖マルチン病院で募った義援金とバザーの収益金、をあわせて20万円を送る。

＊修道院から小児用おむつを3ケース（箱）、炬燵を業者より直送する。

＊管区長が総長・管区長会主催の東日本被災地を訪問し、諸所の支援ベースを訪問する。

釜石ベースでのボランティア活動 坂出教会 綾 保子

11月になり急に被災地のことが気になり、サポートセンターに電話してボランティアの募集をしているか問い合わせた結果、仙台ではなく釜石ベースに行きました。最低3日間はするようにとのことで、12月8日から12月11日まで参加しました。活動内容は傾聴と写真洗浄でした。

1日目は傾聴ボランティアをしました。被災した方のそばにいてお話をお聴きしました。その方の苦しみや悲しみは私の想像をはるかに超えていました。被災した方々の心のケアの必要性を感じました。カリタスジャパンの方が心のケアをしていて、そのきめ細かい対応は素晴らしいと思いました。

2日目は写真洗浄をしました。アルバムはところどころ青かびがつき、泥で汚れていました。異様な臭いもしました。地元の方が洗浄の仕方の一つ一つ丁寧に教えて下さいました。写真を洗浄する時、保存状態が悪い写真は画像が消えてしまいます。そんな時は自分の手足が引きちぎられるような思いにとらわれます。“ごめんなさい”わたしが洗浄したために大切な思い出を消してしまっ。申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。また洗浄をしているとほこりが出て、アレルギー体質の私はマスクをしているにもかかわらず、鼻水がズルズルと出てきて困りましたが、午後からは大丈夫でした。写真洗浄は大槌の学校体育館吹奏楽部室が作業場になっていてトイレがありません。昼休みには少し離れたところにあるトイレまで行きましたが、水も出ず、手が洗えませんでした。その間、震度4の地震が起きましたが毎日体に感じる地震もありました。



3日目はこれまでとは違う仮設住宅の集集場で傾聴ボランティアをさせていただきました。その仮設住宅は日照時間が1時間しかなくて寒く、12月中旬になってやっと断熱材が設置されて温くなったということでした。また、雨が降ると洗濯物も干せないということで庇の工事もしていました。津波から9か月経っても釜石教会近辺は空き地だらけで、家を建てているところは少なかったです。仮設住宅に入居できても水があまり出なかったためにお湯がなく、寒くて眠れず血圧が高くなった人もいたようです。人々のそんな生活状況の中、川にはサケが帰って来たとの明るいニュースもありました。12月の活動中、毎日ミサにあずかれたことはわたしの心の慰めでした。

4月になって釜石教会から“またのお越しをお待ちしています”と書かれたハガキが舞い込み、5月に入って2回目のボランティアに行きました。前回空き地だったところに家が建っていました。12月に出会った方とも再会しました。周りのつらい体験をされた方々と前向きに生きていこうとされている姿を感じました。また、そこに来られた女性の方が「皆さんのおかげで心が安定してきました」と話されました。一人のボランティアの私にできることは限られていますが、他の方々の協力やカリタスジャパンの継続的かわりに素晴らしいものを感じています。

ボランティアのわたしたちに地元の方が食事を作ってくださいました。震災の辛さや何とも言えない苦しさなどで自殺した方もおられることのことでした。今回も毎日のように地震がありました。釜石教会の神父様から、1年経っても避難する日があったと伺い、心が痛みました。カリタスジャパンの方の「ボランティアさんの心と体の健康が大切」というお話が心に残ります。人のために働ける恵みを神様に感謝しています。

